

N. Gregory Mankiw

Principles of
Economics

第9章
応用:国際貿易



Sixth Edition

メディアスクーリング 経済学入門I/A 第13講

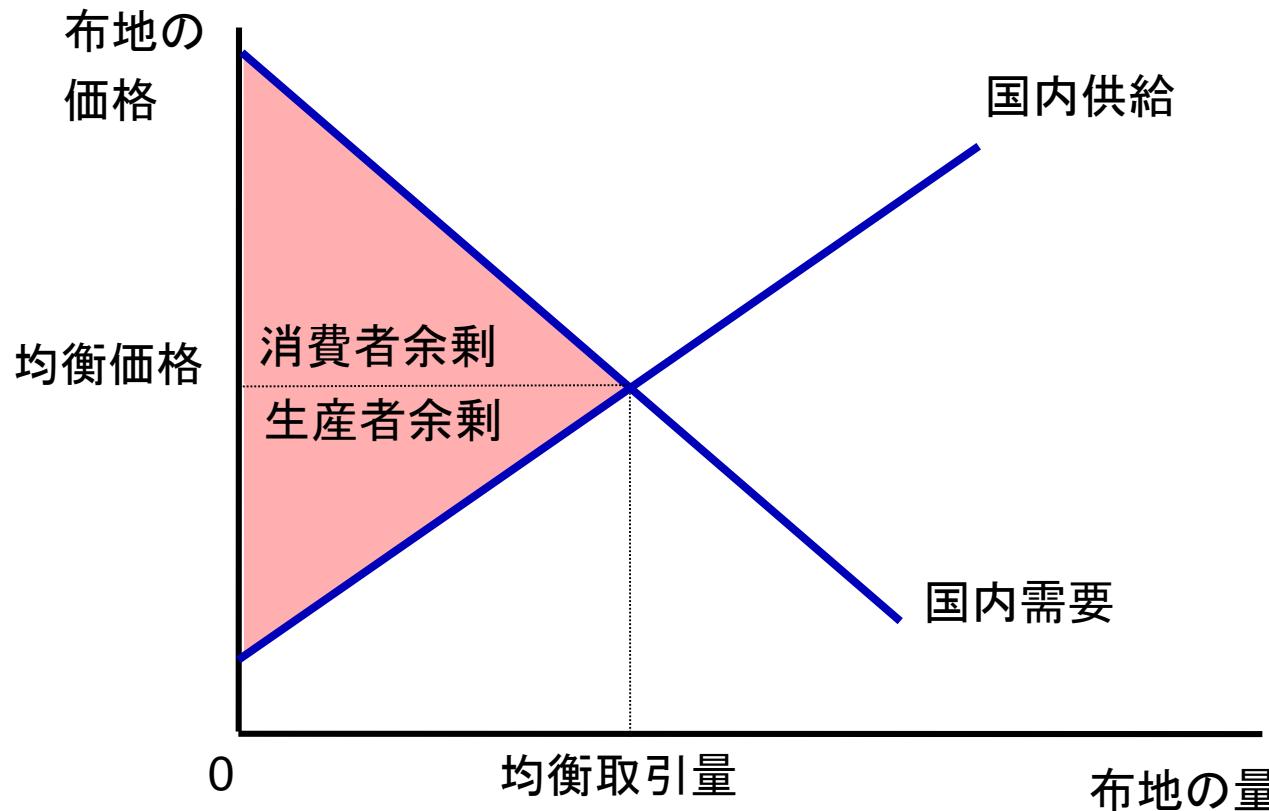


貿易の決定要因

- ・ 貿易がないときの均衡
 - 国内の売り手と買い手のみで構成
 - 均衡価格と数量は国内市場で決定
 - 総便益は消費者余剰と生産者余剰の合計



国際貿易がないときの均衡



ある経済が世界市場における取引ができないとき、価格は国内の需要と供給が等しくなるように調整される。この図は、アイソラントという仮想国の布地市場における、貿易がないときの均衡の下での消費者余剰と生産者余剰を示している。



貿易の決定要因

- ・国際貿易を許可するとどうなるか？
 - 国内の市場における価格と販売量はどうなるか？
 - 誰が利益を得て、誰が損失を被るか？また利益は損失を上回るか？
 - 関税を新しい貿易政策に組み入れるべきか？



貿易の決定要因

- **世界価格**
 - 世界市場で成立している財の価格
- **国内価格**
 - 国内市場における財の機会費用



貿易の決定要因

- 国内価格と世界価格との比較
 - その国がその財に比較優位を持つかどうかがわかる
 - 国内価格 < 世界価格
 - 財を輸出できる
 - その財に比較優位を持っている
 - 国内価格 > 世界価格
 - 財を輸入する
 - 世界のほうがその財の比較優位を持つ



貿易による勝者と敗者

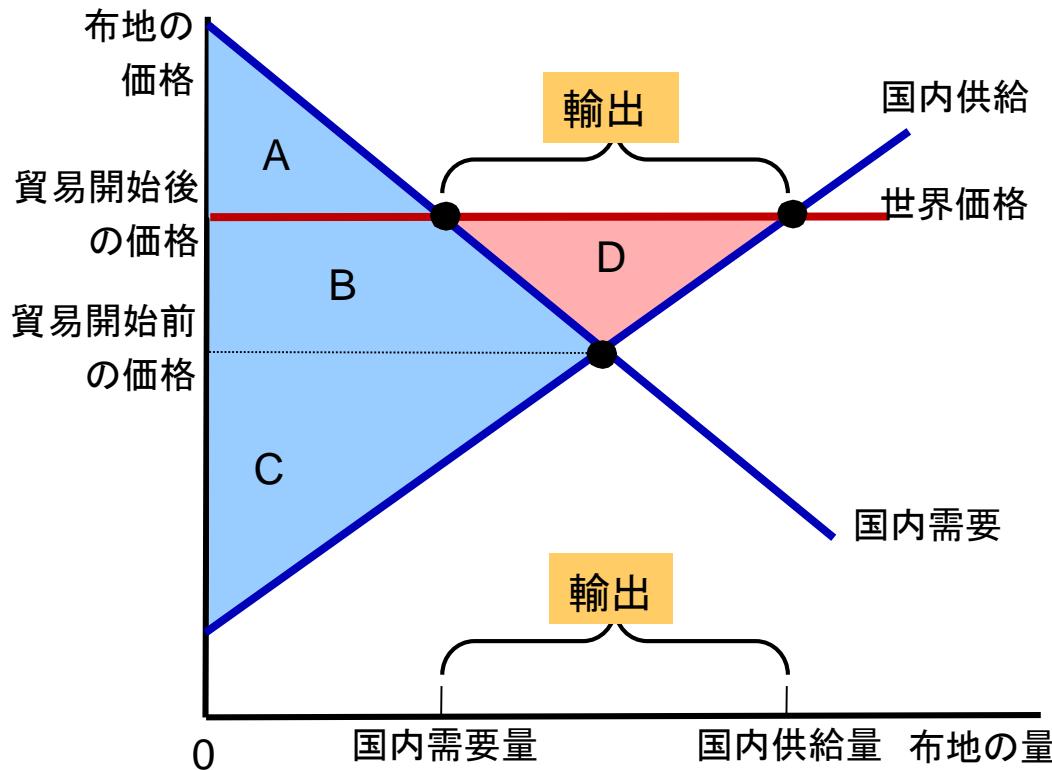
- **輸出国**

- 貿易前の国内均衡価格が世界価格よりも低い場合
- 貿易が認められると、
 - 国内価格は世界価格と等しくなるまで上昇する
 - 国内供給量は国内需要量を上回る
 - その差が輸出される





輸出国における国際貿易



貿易が許可されると、国内価格は上昇して世界価格と等しくなる。供給曲線は国内の布地の生産量を示し、需要曲線は国内の消費量を示す。アイソラントからの輸出は、世界価格における国内の需要量と供給量の差にあたる。売り手は厚生が上がり（生産者余剰がCからB+C+Dに増加）、買い手は厚生が下がる（消費者余剰がA+BからBに減少）。総余剰はDの面積だけ増え、貿易が国全体として経済的福祉を改善することを示している。

	貿易前	貿易後	変化
消費者余剰	$A + B$	A	$-B$
生産者余剰	C	$B + C + D$	$+ (B + D)$
総余剰	$A + B + C$	$A + B + C + D$	$+D$

D の面積が総余剰の増加分、つまり、貿易利益を表している。



貿易による勝者と敗者

- **輸出国**
 - 貿易開始前
 - 消費者余剰
 - 生産者余剰
 - 貿易開始後
 - 消費者余剰の減少
 - 生産者余剰の増加
 - 総余剰の増加



貿易による勝者と敗者

- ・貿易開始後の輸出国
 - 国内の生産者の厚生は改善する
 - 国内の消費者の厚生は悪化する
 - 利益を得る者の利益が損失を被る者の損失を上回るという意味において、貿易はその国の経済的福祉を向上させる



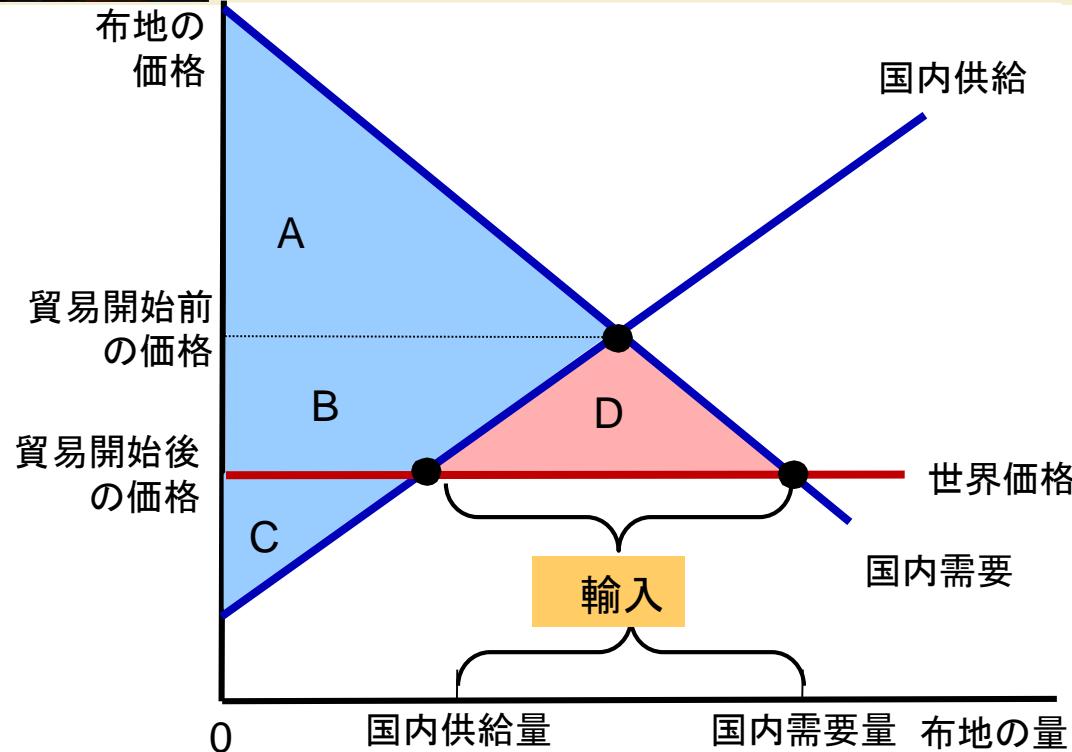
貿易による勝者と敗者

- **輸入国**

- 貿易前の国内価格が世界価格よりも高い場合
- 貿易が認められると
 - ・ 国内価格は世界価格と等しくなるまで下落する
 - ・ 国内の供給量は国内の需要量よりも少なくなる
 - ・ その差は輸入される



輸入国における国際貿易



貿易が許可されると、国内価格は下落して世界価格と等しくなる。供給曲線は国内の布地の生産量を示し、需要曲線は国内の消費量を示す。アイソラントの輸入は世界価格における国内の需要量と供給量の差にあたる。買い手は厚生が上がり(消費者余剰がAからA+B+Dに増加)、売り手は厚生が下がる(生産者余剰はB+CからCに減少)。総余剰はDの面積だけ増え、貿易が国全体としての経済的福祉を改善することを示している。

	貿易前	貿易後	変化
消費者余剰	A	A+B+D	+ (B+D)
生産者余剰	B+C	C	-B
総余剰	A+B+C	A+B+C+D	+D

D の面積は総余剰の増加分、つまり、貿易利益を表している。



貿易による勝者と敗者

- 輸入国
 - 貿易開始前
 - 消費者余剰
 - 生産者余剰
 - 貿易開始後
 - 消費者余剰の増加
 - 生産者余剰の減少
 - 総余剰の増加



貿易による勝者と敗者

- ・ 貿易開始後の輸入国
 - 国内の生産者の厚生は悪化する
 - 国内の消費者の厚生は改善する
 - 利益を得る者の利益が損失を被る者の損失を上回るという意味において、貿易はその国の経済的福祉を向上させる
- ・ 交易(取引)はすべての人々をより豊かにする



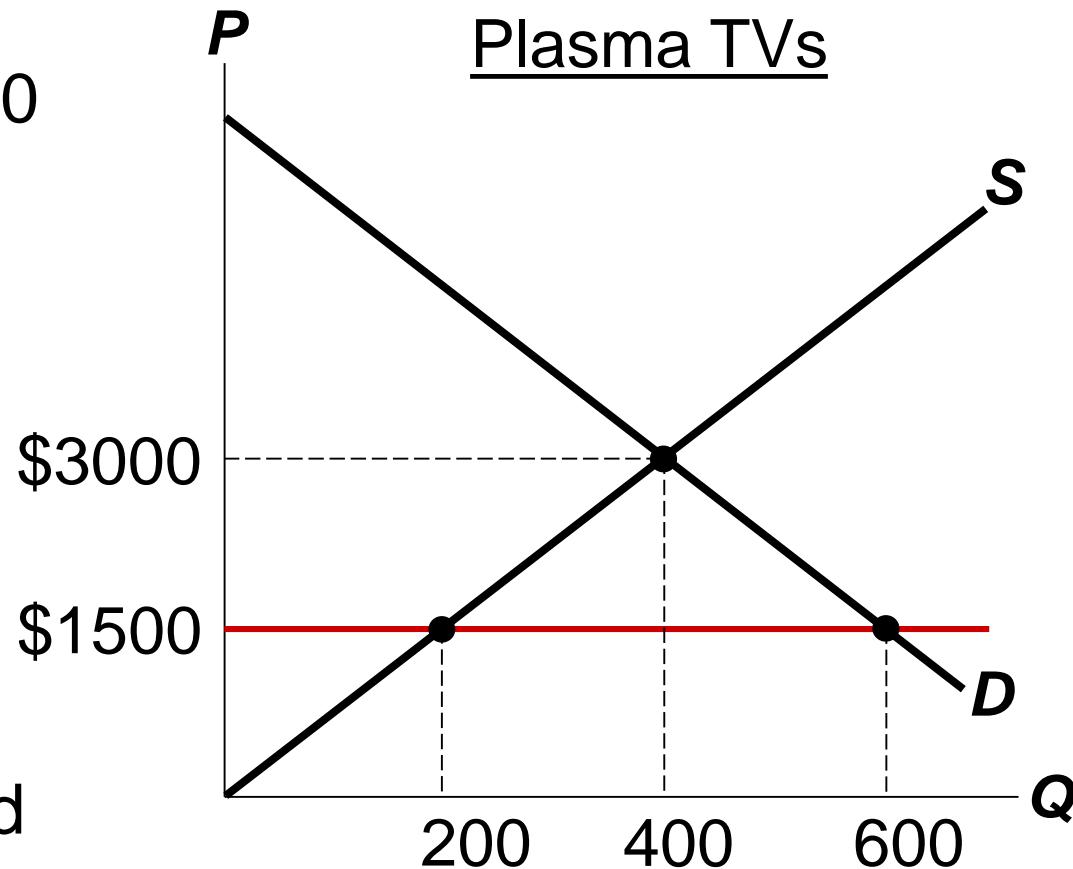
ACTIVE LEARNING 1 Analysis of trade

Without trade,
 $P_D = \$3000$, $Q = 400$

In world markets,
 $P_W = \$1500$

Under free trade,
how many TVs
will the country
import or export?

Identify CS, PS, and
total surplus without
trade, and with trade.



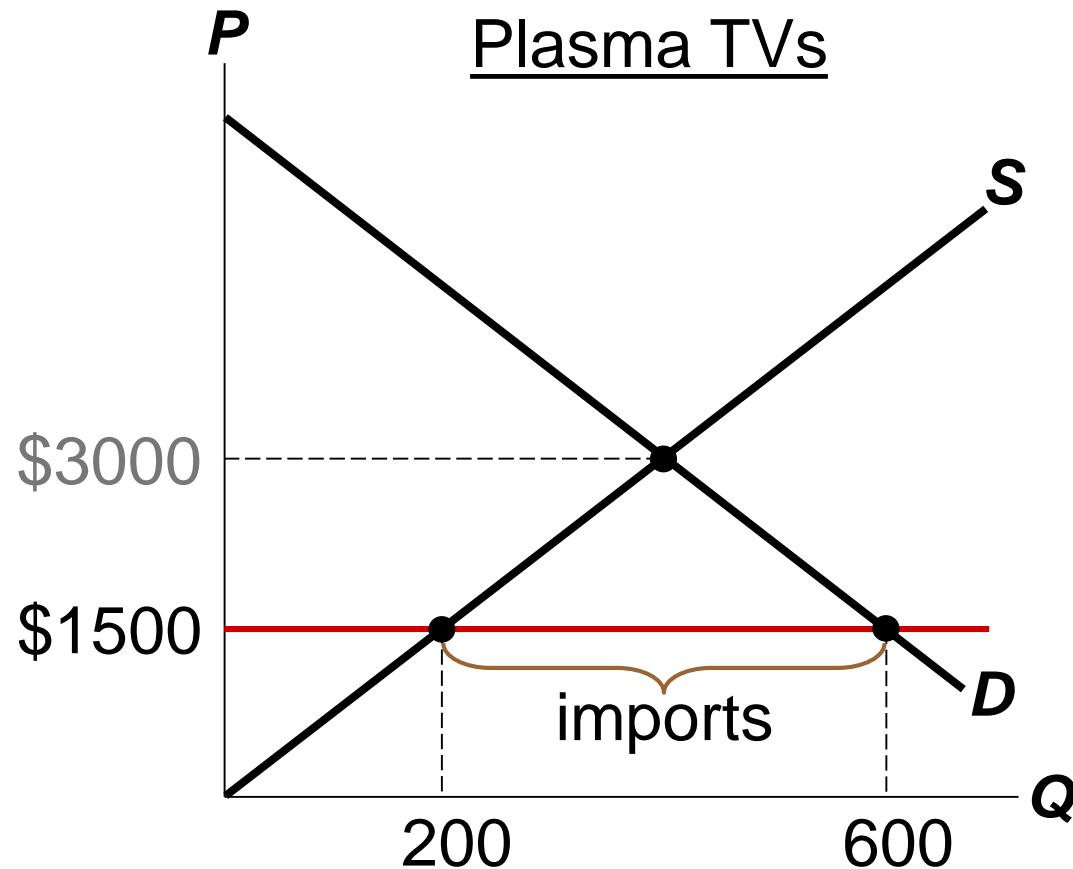


ACTIVE LEARNING 1

Answers

Under free trade,

- domestic consumers demand 600
- domestic producers supply 200
- imports = 400





ACTIVE LEARNING 1 Answers

Without trade,

$$CS = A$$

$$PS = B + C$$

Total surplus

$$= A + B + C$$

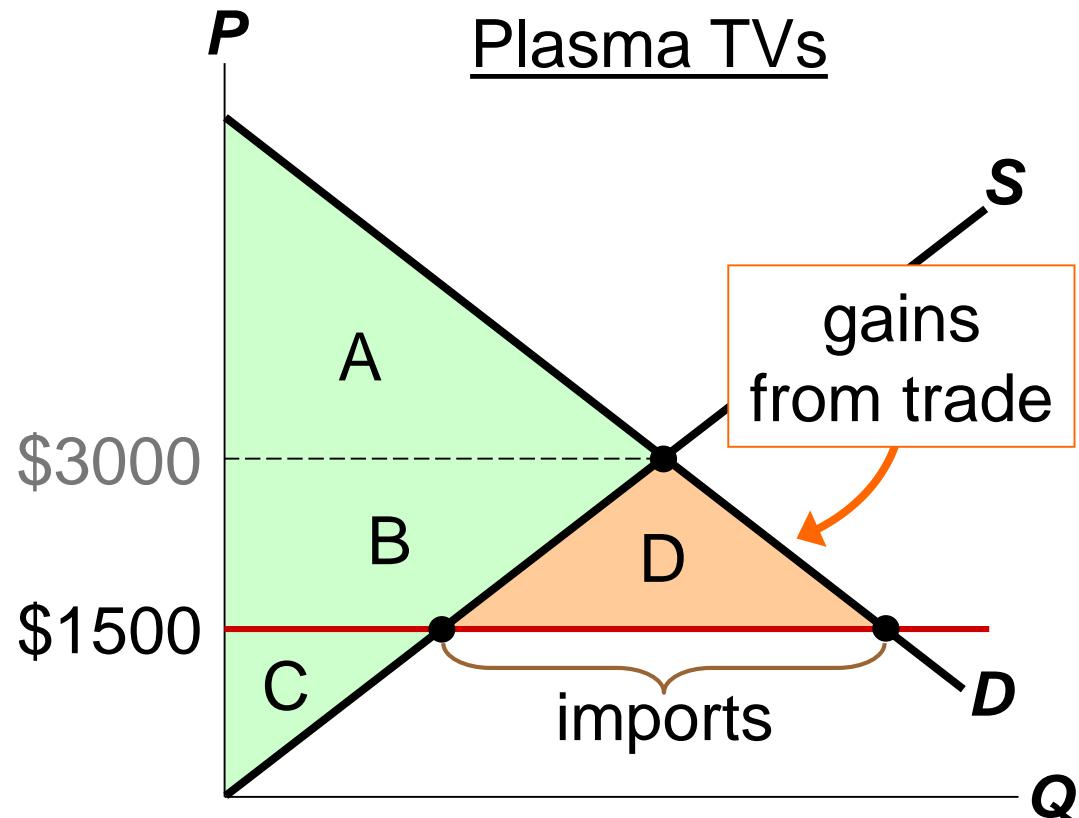
With trade,

$$CS = A + B + D$$

$$PS = C$$

Total surplus

$$= A + B + C + D$$



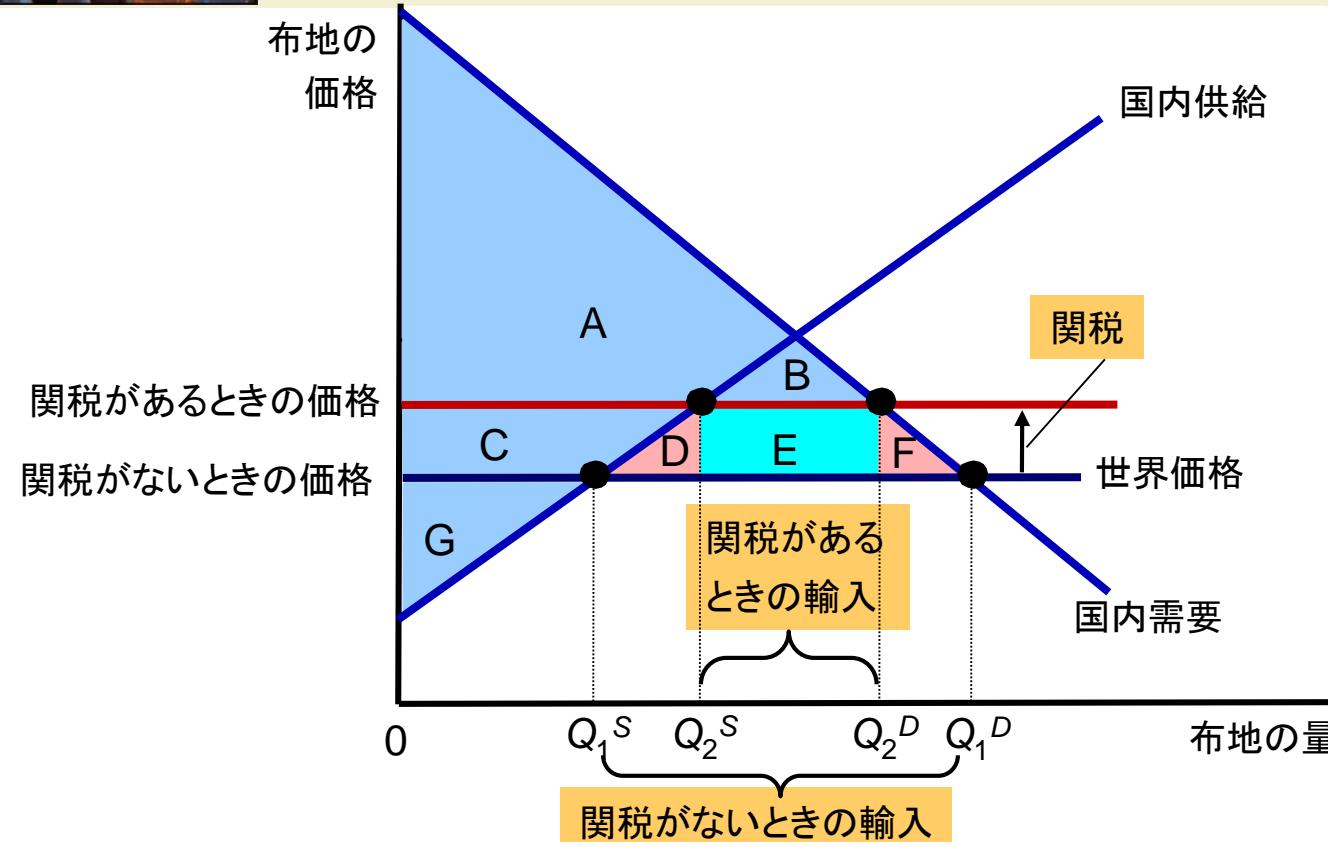


貿易による勝者と敗者

- **関税**
 - 海外で生産されて国内で販売される財に課される税
- **自由貿易**
 - 国内価格 = 世界価格
- **輸入財への関税**
 - 輸入価格を関税の分だけ世界価格よりも高くする



関税の影響



$D+F$ の面積は、総余剰の減少と関税による死荷重を表している。関税は輸入量を減らして市場を貿易がないときの均衡に近づける。総余剰は $D+F$ の面積だけ減少する。この二つの三角形は関税による死荷重を表している。

	関税前	関税後	変化
消費者余剰	$A+B+C+D+E+F$	$A+B$	$-(C+D+E+F)$
生産者余剰	G	$C+G$	$+C$
政府の税収	なし	E	$+E$
総余剰	$A+B+C+D+E+F+G$	$A+B+C+E+G$	$-(D+F)$

$D+F$ の面積は総余剰の減少、つまり、関税による死荷重を表している。



貿易による勝者と敗者

- 関税の影響
 - 価格を関税分だけ上昇させる
 - 国内需要量を減少させる
 - 国内供給量を増加させる
 - 輸入量を減少させる
 - 国内市場を貿易前の均衡に近づける
 - 国内生産者の厚生を改善する
 - 国内消費者の厚生を悪化させる



貿易による勝者と敗者

- 関税前
 - 消費者余剰
 - 生産者余剰
 - 税府の税収 = 0
- 関税の影響
 - 消費者余剰は減少する
 - 生産者余剰は増加する
 - 政府は税収を得る
 - 総余剰は減少する



貿易による勝者と敗者

- 国際貿易のその他の利益
 - 財の種類の増加
 - 規模の経済を通じての費用の低下
 - 競争の激化
 - すぐれた知識の流入の促進



貿易制限を支持する議論

- 雇用の議論
 - 「外国との貿易によって国内の雇用が失われる」
 - 自由貿易は雇用を喪失させると同時に雇用を創出する
- 安全保障の議論
 - 「その産業は安全保障のために必要だ」
 - 国家安全保障について正当な重要性があるときには、重要な産業を保護することが適切かもしれない



貿易制限を支持する議論

- 幼稚産業論

- 「新しい産業を立ち上げるために一時的に貿易制限によって保護すべきだ」
- 実行するのが難しい
- 「一時的」政策を廃止するのは難しい
- 幼稚産業が成長するために保護は必要ない



貿易制限を支持する議論

- ・ 不公正競争の議論
 - 「自由貿易が望ましいのは、すべての国が同じルールの下にあるときのみである」
 - 国にとっての総余剰は増加（外国政府の企業への助成による国内生産者の厚生の悪化は、国内消費者の厚生の改善より小さい）
 - 交渉力としての保護の議論
 - 「貿易相手国と交渉する際には貿易制限は有益」
 - 脅しは効かないかもしれない



貿易協定と世界貿易機関

- 世界貿易機関(WTO)
- 自由貿易を実現するための一方的アプローチ
 - 貿易制限を自ら廃止(19世紀にイギリスがとり、最近では韓国やチリがとっている)
- 自由貿易を実現するための多角的アプローチ
 - 外国が貿易制限を緩和するのと同時に自國も緩和する(NAFTAやGATT)





貿易協定と世界貿易機関

- 北米自由貿易協定 (NAFTA)
 - 1993年にアメリカ、メキシコ、カナダの間で貿易障壁を引き下げる
- 関税と貿易に関する一般協定 (GATT)
 - 自由貿易の促進を目的とした、世界の多くの国々での一連の交渉



貿易協定と世界貿易機関

- GATT
 - アメリカもGATTの設立に貢献
 - 第2次世界大戦後、1930年代の大恐慌時の高率の関税に対する反省の下に設立
 - 加盟国の平均関税率を第2次世界大戦後の40%から現在では約5%まで引き下げることに成功
 - 現在はWTOによって施行
 - 2009年時点で153カ国がWTOに加盟
 - WTO加盟国で世界貿易の97%を占める



貿易協定と世界貿易機関

- 多角的アプローチの賛成論
 - より自由な貿易の可能性
 - 多角的アプローチでは自国の貿易制限だけでなく外国の貿易制限も緩和されるので、結果としてより自由な貿易になる可能性がある
 - 政治的側面での優位性
 - 生産者は消費者と比べて数が少なく、よく組織化されているため、大きな政治的影響力を持っている。そのため、一方的アプローチが政治的支持を受けられない場合でも、多角的アプローチでは支持を受けられる場合がある